

村の世帯・人口

1967年 7 月末日現在

総世帯数 1,847戸

男 4,901人

女 4,906人

計 9,807人

当月の人口移動

出生 19 死亡 7

転入 25 転出 24

婚姻 15 離婚 1

広報にはら

発行所
西原村役所
電話 (095) 2401
印刷所
桑江印刷所
与那原小学校となり
電話 (095) 2365

新年度から規程改正

主なものとくじ

一 広報活動強化のため新年度から規程改正

二 本土市町村庁舎視察報告

三 さとうきび第一回生育調査まとまる

四 一九六七～六八年期甘蔗生産予想

五 政府さとうきび生産指導地域設定

六 「医学メモ」「寄生虫の駆除」

七 村の話題

1 行政、教育功労者の表彰

2 球技大会……西原体協が

3 社会教育主事に比嘉武徳氏

4 教公二法阻止共闘会議西原支部結成

5 村育英資金に寄附

6 さとうきび生産苗の割当

7 講和発効前損失補償金支払始まる

8 納税成績前年度より上昇

広報活動強化のため

従来村広報は、一月、四月、七月、十月と年四回の発行計画でありましたが新年度からは規定改正によって奇数の月、一月、三月、五月、七月、九月、十一月と年六回発行することになりました。

新年度からの広報活動は、村の話題、団体の話題、人の動き、部落からの新しいニュースなど、この広報上に登載して明るいつくりのた

今後とも村民皆様から村政に対するをよせて下されば幸に存じます。

員屋良朝光岡新堀良計、助役吉平吉

ように視察結果をとりまとめまし

8

8

8

8

8

9

9

9

9

9

9

9

9

9

9

9

広報活動強化のため

新年度から規程改正

広報のつとめは行政活動の一環として、村政を民主的にかつ円滑な運営と発展を図り、村民のご理解とご協力を得て広く村政の状況を村民一般にお知らせすることが大切な役目である。

本村の広報業務は、一九六六年四月一日創刊号を発刊してから、今回まで第七号を発刊いたしました。この広報は村広報規定によって団体と個人に無料配布することを義務づけられています。

発刊以来、村民皆様のお手許には各字区長を通じて配布され、九千余人の村民のご愛読をはじめ、政府関係官庁、中南部市町村へも情報交換のため送付され、また遠地は、海山をこえて宮古、八重山、あるいは村出

身海外同胞の観光旅行者がある場合は数冊づつ差上げてご愛顧をいただいて好評をほくしております。広報業務はこのように、村政全般の普及宣伝と報道に関することを主眼としています。

従来村広報は、一月、四月、七月、十月と年四回の発刊計画でありましたが新年度からは規定改正によって奇数の月、二月、三月、五月、七月、九月、十一月と年六回刊行することになりました。

本土市町村庁舎視察報告

それと相まって村民から御批判御意見などをうけ入れて、明るい村政に繁栄させるには村民の協力が必要であります。

新年度からの広報活動は、村の話題、団体の話題、人の動き、部落からの新しいニュースなど、この広報紙上に登載して明るい村づくりのため、一層の努力したいと思えます。

本土視察過程

月日(曜)	事	項
七月十一日(火)	零時一〇分ひめゆり丸にて那覇港出発	
七月十二日(水)	船中	
七月十三日(木)	午前十一時東京晴海桟橋に着く。東京都内香雲館に投宿	
七月十四日(金)	午前十時三〇分南方同胞援護会を訪問、副会長上房太郎氏、事務局長吉田嗣延氏へ村民福祉会館建設の協力要請 午後一時自治省訪問、自治省行政局行政課自治事務官酒井昭氏から本土市町村行政の概要について説明を聴く 中谷正和氏(南方同胞援護会勤務、本村出身)の特別の計いで東京都港区共明舟町割烹亀清で午後六時から午後十時まで懇談会、出席者、副会長上房太郎氏、事務局長吉田嗣延氏、中谷正和氏と義栄、屋良朝光、新垣良計、宮平吉太郎、午後十時帰宿 午前十三時三〇分立川市議会事務局訪問、議長志村真次郎氏、事務局長大久保五良氏、市役所建設課長安国六三郎氏から市庁舎建築状況の説明を聴く 村出身の中谷正和氏の案内で東京都杉並区西田町に比嘉春潮氏を訪問村誌編集協力依頼 午後二時六分上野駅発急行電車で栃木県宇都宮市へ午後三時四〇分宇都宮駅着く。市内ホテル柳荘に投宿	
七月十五日(土)	午前九時三〇分栃木県館に栃木県市町村議会事務局を訪問、町村議会事務局局長松永栄太郎氏、同主事福田利夫氏、町村会主事高橋久男氏から栃木県町村の庁舎建築状況、行政政の状況、議会運営及び農業構造改善事業の説明を聴く 農会事務局職員案内で市内観光、平和観音像、大谷観音像、議会事務局長の案内で午後三時河内村役場へ着く 議長釜井利夫氏、副議長直井真太郎氏、事務局局長橋本義臣氏、村役場建設課長斎藤久四郎氏から新庁舎建築状況の説明を聴く 午後四時三〇分西那須野役場に着く。西那須野町長中島欣三郎氏、総務課長阿久津文一氏、議会事務局局長舟山和雄氏、産業課長中村耕一氏から農業構造改善事業および略歴経営について説明を聴く 町村議会事務局の計いで栃木県市町村職員共済組合経営による塩原温泉もみち荘に投宿	
七月十六日(日)	塩原温泉発の乗合バスで西那須野へ午前九時三十分発の急行電車で茨城県水戸市へ。午後二時六分水戸駅着く 茨城県自治会館へ町村議会議長会訪問事務局局長高木二不男氏から町村の実態について説明を聴く 議会事務局職員案内で東海原子力センターを視察自治会館へ投宿	
七月十七日(月)		
七月十八日(火)		

七月十九日(水)	午前九時次城自治会館を出発、議事事務局職員の案内で常北町役場へ。間、議長綿引弥七氏、助役森男氏、総務課長から町政一般と庁舎建築について説明を聴く。午後一時大宮町役場訪問、議員海老根善次氏、同荏谷進氏、同後藤欣也氏、総務課長茅根博氏から行政と議会運営について説明を聴く。
七月二十日(木)	午前九時茨城自治会館を出発、議事事務局職員の案内で茨城町役場を訪問、町長秋津正夫氏、議長金沢正夫氏、教育長雨谷厚氏、総務課長等から町政、行政と教育行政について説明を聴く。午後一時最後の視察地阿見町役場を訪問、助役青山長一氏、総務課長湯原栄雄氏から庁舎建築状況の説明を聴く。午後二時五十分発着。東京へ、午後三時五十分上野駅着く。東京都内香雲館へ投宿。
七月二十一日(金)	自由行動(都内観光)
七月二十二日(土)	同右
七月二十三日(日)	〃
七月二十四日(月)	午前九時二十分東京駅発超特急ひかり号で大阪へ、午後零時四十分大阪駅着く。大阪内観光午後七時三十分大阪駅発高千穂号で別府へ。
七月二十五日(火)	午前九時十五分別府駅着。別府市内観光、南山荘へ投宿。
七月二十六日(水)	午前九時十六分別府駅発高千穂号で鹿児島へ、午後五時十七分鹿児島駅着。持村荘へ投宿。
七月二十七日(木)	自由行動
七月二十八日(金)	午後二時三十分鹿児島発定期航路おとひめ丸にて出港。
七月二十九日(土)	午前十一時那覇港着く。

視察の概要

この度、特別な計らいにより私達

四名(議長与儀栄、議員屋良朝光、議員新垣良計、助役宮平吉太郎)は

本土研修に、去る七月十一日から二十

十日間の強行日程で一市五町一村(

東京都立川市役所、栃木県阿内村役

場、西那須野町役場、茨城県常北町

役場、大宮町役場、茨城町役場、阿

見町役場)の庁舎などを直接見聞す

ることができたのは、大きな収穫で

あり、本村役所庁舎の建築を進めて

いくうえに大いに参考になった。

今回の上京に際しては、本土の暑

さが例年にないといわれ暑さのきび

しさは一段と増して、目もくらむ陽

光のもとに私達一行は互に励まし合

いながら所期の目的を達成して帰任

することができました。

主たる目的は、本村役所庁舎建築

に伴い、本土の先進地の近代的庁舎

を視察し、その短を補い、長を採

り、地方自治センターとして代表的

なものにするためであります。

見聞するにまったくの無のなかか

ら立ちあがり、復興と前進の一途を

辿り庁舎建築様式の変せんに今さら

ながら驚きを感じる。構造規模とい

い実に近代建築の粋を集めて見事な

庁舎が完成している。

ほとんどの庁舎が中心殿堂として

偉容を輝し、市町村の発展と住民の

幸福を象徴しているような感じをう

けた。

まず、最初に東京都立川市役所を

訪れたのでありますが、立川市は立

川飛行場のあるところで立川駅を南

北に発展しているような街で東京駅

の都心部より約三十キロ離れたとこ

ろに位置している。

市長部局に属する職員数が八二七

名で六部二四課という大世帯を抱え

ている。

次に、一市五町一村の庁舎建築の

概要を要約して述べてみたいと思

います。

一 住民に対するサービス行政を

進め行うためには常に住民の利便を

計るように留意されている。

本二 採光通風等職員の衛生的な面

には特に重点をおいて設計され

ている。

三 事務室内は、自然光線の明る

みさが平均化されて執務環境は最

善である。

四 この点につきましては、事務室

内が暗いと事務能率に影響し、

近視その他の眼の病気を誘発す

る虞れがあるとされている。

五 各市町村とも事務室において

スペースを充分活用して事務能

率の増進を図るために合理的に

課の配置がなされている。

六 しかし事務室内の配置について

は、対向式配列を(相向い)を

採用し、同向式配列(学校式配

列ともいう。)は、見うけられ

なかったのであります。

茨城県大宮町役場も同向式配列を採用しておったそうでありすが従前の対向式配列に復活したとのことであります。

これは各々利点もあり、また不利な点もあるといわれております。同向式配列の場合は、床面積が対向式配列に比べ二十パーセント程度も余分に必要であるとされております。

五 幹部の個室はなるべく少なくし、面積も少くするのが望ましいとされているが立川市役所の場合は、市の威信を持たすためか幹部個室は余りにも広すぎる

太も感じをうけた。

六 他五町一村の幹部個室は適当な面積が確保されている。

六 市町村の住民課は、住民サービス機関として他課とを遮蔽するのが望ましいとされている。

立川市の場合は、市民と接触の多い市民課は、市民が気軽に利用できるように住民関係の窓口

事務の取扱を玄関入口でなく、裏口から出入できるように合理的に配置されている。

七 一市五町一村とも機械化を導入して事務能率化を図っている

が機械台数が多い市町村は、特に執務に影響しないように全部

専用の部屋を設けて遮蔽している。

十八 一市五町一村の中に特に茨城県阿見町役場は、一九六六年十

庁舎建築概要

位置	東京都立川市錦町四丁目			
敷地面積	2,091坪			
建築面積	1,655坪			
内 訳	地階	273,24坪	3階	396,432坪
	1階	477,935㎡	屋上	28,198㎡
	2階	480,034㎡	計	1,655.83㎡

構 造 バランスドラーメン方式
鉄筋コンクリート一部
鉄骨造 地上3階 地下1階

外 部 仕 上

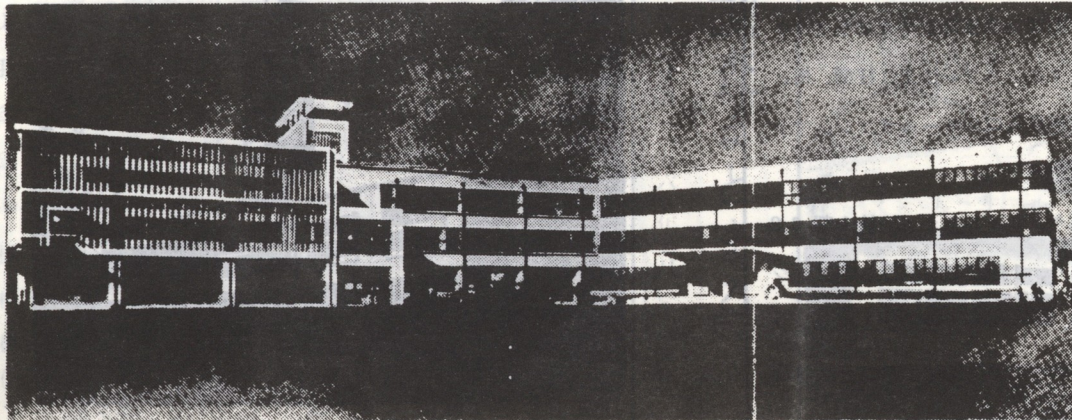
独立柱	コンクリート打放し		
外 壁	二丁掛テラコッタタイル及 パールコート仕上 一部白セメントモルタル鍍みがき		
窓 外	スケール サツシユO・P		
ルーバー	プレキャストプロツク		
屋 上	アスファルト	防水断熱	ブロック貼
車 寄	床、花崗岩舗石ブロック敷込み		

建築工事概要

建築工事	86,646,360.00円	(240,684.33ドル)
電気工事	18,083,609.00円	(50,232.25ドル)
給排水衛生工事	6,033,848.00円	(16,760.69ドル)
暖房工事	11,617,363.00円	(32,270.45ドル)
計	122,381,180.00	(339,947.72ドル)
坪当単価		
建築工事費	52,328.00円	(145.36ドル)
附帯工事費	21,581.00円	(59.95ドル)
計	73,909.00	(205.30)

内 部 仕 上

応接室 床	リノタイル	議場床	ロンリユーム
壁	コペンハーゲン張り	壁	ロックウール下地、コペンケシリプ張り
天井	吸音テツクス	天井	ロックウール下地有孔フレキシブルボード、ビニールペイント仕上
市長室 床	イチロン	事務室、床、トルギノール	
壁	塩地ベニヤ練りつけ、大理石及富士石ブロック貼り一部植毛ビーンク貼り	腰、ネオパール塗り	
天井	トムレックス一部吸音テツクス	壁、プラスター	
		天井、吸音テツクス	



東京都立川市役所全景

月十日に落成したばかりの庁舎で近代的に建築され、内部構造においても欠点のない庁舎であった。

カウンターも移動式で事務室の狭隘が余儀なくされた場合は何時でも廊下に拡大して、同室を確保し得るように考慮され廊下もそのように弾力性を十分持たせている。

九 照明の条件についてもよく考慮され、日光に近い色を用いて

いる。

十 職員の更生施設として男女別にロッカー（職員の私物入れ）を設けている。

十一 事務室の色彩も白色を用いている。

十二 一市五町一村とも立派な専用議場を設けて暖房装置はされているがその反面冷房装置は皆無の状態である。説明によると冷房装置の場合は住民感情を考慮しているとのこと。しかし議

場内は暑苦しい感じがするし、もっと自然冷房装置を考えるべき設計が必要であると感ずる。

十三 事務室は将来の発展を考慮し、十分弾力性を持たせて設計されるべきであると痛感した。以上内部構造について申し上げましたが、工事の概要について代表的な庁舎の工事概要を申し述べ庁舎の視察報告にかえさせていただきます。

庁舎建築の概要

名称 常北町役場
敷地 茨城県常北町大字石塚字佐久山1428番地の1

建築面積 526,825 m^2 延 1,068,503 m^2
1階 500.88 m^2 (151,516坪)
2階 480,743 m^2 (145,425坪)
3階 14.88 m^2 (4,501坪)
4階 14.88 m^2 (4,501坪)
5階 14.88 (4,501坪)
6階 14.88 m^2 (4,501坪)
7階 27.36 m^2 (8,276坪)

延面積 1,068,503 m^2 323,221坪

構造 鉄筋コンクリート2階建～1部7階建

高サ 標準地盤より2階屋上まで 8.30m
ク 塔屋上端まで 30.00m

外部仕上 屋根アスファルト防水、外壁、正面、側面 5.3平方タイル貼モザイク
タイル貼り、背面モルタル塗、ダイヤリシンスプレ仕上、柱型、桁、
バラベツトコンクリート打放シ仕上、建具入口スクールサツシ、マド
アルミサツシ

内部仕上 床1階、ブナフローリングブロック貼り、オイルステイン塗1部 6.8
タイル貼り、2階アスファルトタイル貼り、1階壁YNプラスター塗シ
オフツクス塗、柱型YKプラスター塗、ゾラコート仕上、1部サンフ
ツト貼り、2階壁YNプラスター又は耐水ベニヤ下地サニフツト貼り及
び布貼、1階天井吸音ボード貼り、一部サンフツト貼り、

設備の概要

No. 1 暖房設備 (温水循環方式)
英国製 (ボイラーポータートン625型出力156・250 Kcal/h)

重油バーナーガンタイプ

(協栄機械工株式会社)

No. 2 給排水衛生設備

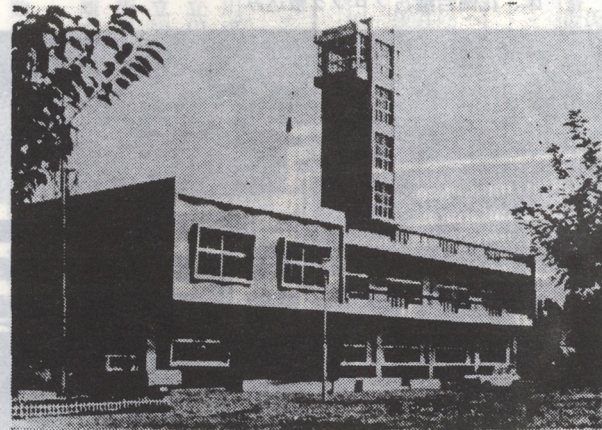
高架水槽による給水、便所、水洗式浄化槽による減菌ろ過排水

No. 3 電気設備 動力 電灯 1式

弱電設備、電話交換台5局20回線設置 火災報知器5ヶ所

No. 4 室内放送設備 スピーカー2

屋上 トランペット スピーカー 460W



茨城県常北町役場全景

調査にあたっては、土地の立地条件、農家経営の状況など堪案し、特に土質、経営者の肥培管理など考慮して抽出調査を行った。

なお、第二回生育調査成績表は第八号「広報にしはら」十一月一日刊行で公表します。

今後農村におけるきび作合理化を推進するため、このたび村経済課におこしては、一九六七年度生育中（一九六七・六八年度）のさへうきび作付面積及び生育調査を夏植、春植、株出を対象として村内十四調査区に分けて生育調査をまとめた。

第一回生育調査は七月二十日から七月二十九日まで第二回調査は十月一日から十月十日まで計画しているが第一回調査を第一表のとおり成績表をまとめてきび農家の方々にご覧いただいて今後農村におけるきび作合理化推進のために役立てたいと思います。

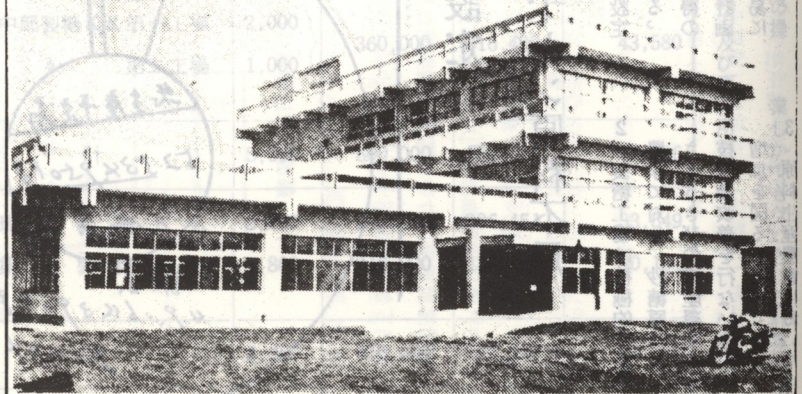
さとうきび第一回生育調査まとめ

第一表さとうきび生育調査成績表（一九六七年度七月三十日現在）

項目	調査区 ほ場名	峯長 cm	峯開 cm	0.1アール当り 本	10アール当り 本	10アール当り 予想収量 kg
夏植 春植 株出	我謝	1.73	8.2	112	11,200	10,449
	春幸地	0.62	7.4	57	5,200	4,000
	津花波	1.68	8.3	115	11,500	11,983
	上原	1.59	7.8	114	11,400	10,636
	兼久	1.40	7.6	129	12,900	9,520
	我謝	1.59	8.5	96	9,600	9,417
	翁長	1.55	8.3	95	9,500	8,740
	翁長	1.53	7.4	108	10,800	8,964
	幸地	1.26	8.2	106	10,600	8,034
	桃原	1.32	7.9	105	10,500	7,950
	桃原	1.30	7.7	103	10,300	7,405
	棚原	1.60	8.0	76	7,600	7,090
	伊保の浜	1.34	8.2	93	9,300	7,049
	干原	1.40	7.7	80	8,000	6,528
平	均	1.46	7.9	101	10,100	8,609

庁舎工事概況

1. 位置 茨城県阿見町4667番地の1
2. 敷地面積 5,950㎡ (179,988坪)
3. 建築面積 1,267.52㎡ (383,425㌦)
4. 建築床面積 1,990.6㎡ (602,156㌦)
一階 1,091.6㎡ (330,209㌦)
二階 475.5㎡ (143,839㌦)
三階 385.5㎡ (116,614㌦)
R階 38.5㎡ (11,646㌦)
5. 構造 鉄筋コンクリート造、地上3階、塔屋1階建
軒高 14.5m 建築高さ 14.9m
屋根 ゴーレックス 防水 モルタル塗
6. 設備概要
イ、本館主体工事
ロ、衛生、給排水、電気工事
内訳、給水、衛生器具、消火栓、屋内外排水、浄化槽、変電、電灯、動力、弱電、電話配管、有放配管火災報知
ハ、暖房及換気設備工事
（内訳、機械、電管、風調、保温、塗装）
ニ、電話設備工事
7. 工期 着工 昭和40年11月17日
竣工 昭和41年8月30日
8. 工費
・本館主体工事 73,890,000円 (205,250.00ドル)
・電気工事、衛生、給排水費 10,280,000円 (28,555.55ドル)
・暖房及換気設備工事費 13,330,000円 (37,027.78ドル)
・電話設備工事費 1,000,000円 (2,777.78)
・家具調度用品費 10,000.00円 (27,777.78ドル)
・設計管理費 3,120,000円 (8,666.67ドル)
合 計 111,620,000円 (310,055.56ドル)



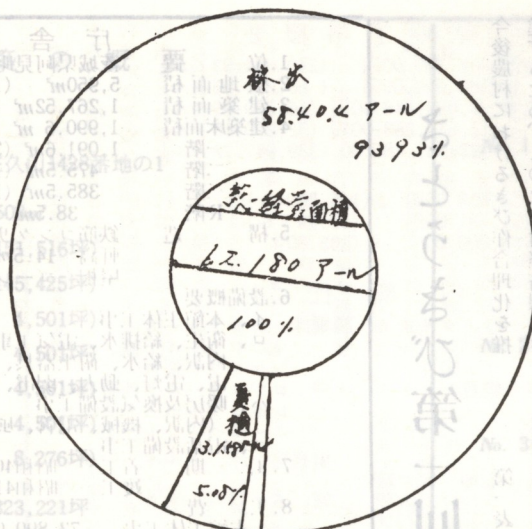
茨城県阿見町役所庁舎

来期のさとうきび生産予想

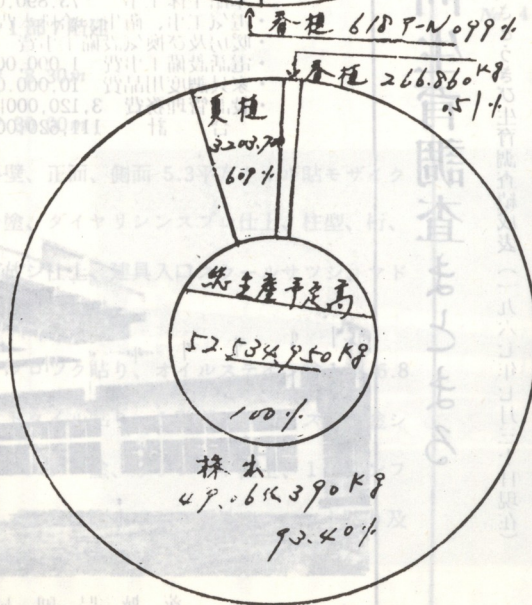
来期のさとうきび搬入もあと、一〇〇日後に迫ってきました、このほど村経済課では一九六七〜六八年期第一回さとうきび生産予想を報告した。

今年の台風はすでに、二十一号まで発生し、本土各地においてはその影響をうけて大雨のため多数の人命まで失うことはすでに新聞、ラデオあるいはテレビなどで報導されておるとおりであります。しかし台風銀座と呼ばれるわが沖縄には何らの影響もなく、また農家にとっても、ほんとにうれしいことである、平年だったら二十一回の台風が発生したら四回ぐらゐは沖縄に襲来しておりま

第一図 蔗園面積の割合



第二図 生産予想の割合



合となっている。

また生産反収からみると(第二図参照)前期総数量平均反収七、八五一キロに対し今期予想反収は八、四四八キロで五九七キロの増収を見込んでいる。蔗園面積株出のうち九三、九三パーセントの大半が四年次以上の株出面積のため、更新しない限り年々の減収は避けられない、いよいよ、今年度から政府の奨励品種NCO一二七六号が本村にも一〇アールの原苗圃が設置されるので、来年からは一般農家に広く普及する計画であると村経済課では話している。

す。

しかしながら今年は雨量が少なく、一番伸長期にあるさとうきびは、高台地帯においては萎縮状態におかれている。本村の前期産糖実績四八、九〇四、一二二、キロに対し、来期の生産予想は五二、五三四、九五〇キロを予想され、台風さえなければ三、六〇三、九〇八キロをうわまわる計算になる、しかしながら本村の来期の蔗園面積経営状況からみた場合(第一図参照 株出五八、四〇四アールで九三、九三パーセントをトップに夏植三、一五八アールで五、〇八パーセントで、春植が六一八アールで〇、九九パーセントの割

政府のさとうきび生産指導地域設定

来期は全琉で二一万八千トン原料不足

来期の製糖期をひかえて、農林局は七月二八日午後二時から中金会議室で、中南北部の農協長会の正副会長を招き、来期から実施予定のさとうきび生産指導地域設定計画案の説明会が催された。

政府案として原料生産指導地域設定によってつぎの利点をあげている、

- 1 製糖工場において原料獲得の基礎が築かれ、合理的製糖計画が樹立され、適期製糖が容易になり歩留の向上が図られる、
- 2 製糖工場は積極的に地域内の農家に対し、砂糖原料としてのさとうきびの増産奨励事業栽培技術の改善を行ない原料生産の増加を図ることができる、
- 3 原料生産農家においては、生

産した原料は所属の製糖工場に搬入し得るものであるから、両者の関係は密になり、共存共栄の実を具現し糖業の振展をはかることが容易になる。

4 原料生産は農家と会社との契約栽培体系が確立され生産計画の達成が期される。

5 原料運搬費の無駄を省くことができる等の利点を上げ、その原料の取扱いは農協に一元化しようとするものである。

政府ではこうした五つの利点をあげている、農協側では慎重な態度でぞみ、今後の対策を考慮している。

また、政府農林局の資料によると(表一)沖縄本島内の七社の製糖工場(一二、八〇〇トン能力)で原料所要数量一、五三六、〇〇〇トンで生産見込量一、二一七、五一七トンで三一八、四八三トンの今後要増産量(原料不足トン数)とみており、農林局では工場の操業日数を一二〇日として過去三ヶ年間の平均生産量を基準として来期の生産予想計画をたてているが、来期の場合(表一)

からみると来期操業は九六日分の操業しかできないという計算になる。

(表一) 分みつ糖工場別能力及び原料所要数量

地域	会社又は工場名	能力	原料所要数量	生産見込量	今後要増産量
北部	北部製糖KK羽地工場	2,000	480,000	295,623	184,377
	〃 今帰仁場	2,000			
	計	4,000	480,000		
中部	琉球農連具志川工場	2,000	360,000	316,420	43,580
	中部製糖KK第一工場	2,000			
	〃 第二工場	1,000			
	計	5,000	600,000	529,574	70,426
南部	琉球製糖KK	2,000	216,000	185,869	30,131
	第一製糖KK	1,800			
	計	3,800	416,000	392,320	63,680
総計		12,800	1,536,000	1,127,517	318,483

「医学メモ」 「寄生虫の駆除」

前回の医学メモは健康管理―と題して病気の種類別とその死因別について、また病気の早期発見と予防などについてあらましをご説明いたしましたが、今回は寄生虫の駆除について述べたいと思います。

いよいよ今月から秋の季節にはいり、いままでの夏の疲れで病気も多く発生する時期になってまいります。今日では生活は安定し文化も進んだといわれていますが、本土においても、沖縄においても今尚寄生虫の保有率が非常に高いといわれています。それは住民が寄生虫に対する関心の低調さによるもので、いわゆる文化国家を以って誇りとするには、先ずその撲滅をはからなければなりません。

貧血と虫体から排泄される毒素があらゆる病気のもととなっています。

▲沖縄寄生虫予防協会

。貧血で顔色が悪い。頭痛、めまい、耳鳴りがする。息切れがする。肩がこる、爪にしわや割れができる。仕事をするに疲れ易い。学童では根気がなくなり学力が低下する

日頃心臓が悪い、栄養を摂つても肥らない、更年期障害だと思っている人の中には十二指腸虫に蝕ばれている方が案外多いのであります。

▲十二指腸虫とはこんな恐い虫です

皮膚から云体に侵入し、血管に入り、心臓や肺を通して腸に達します。そして腸壁に噛みついて血を吸うばかりでなくその附近にも出血を伴いこれが貧血の原因となります。

駆除剤オーミンもこの協会の取計いで本土よりとり寄せられ、わが沖縄の健康と福祉向上のため、寄生虫の作戦まで計画し日夜努力している。

▲本村にも三〇パーセントは十二指腸虫の保有者が?

本村においては、今年一月寄生虫の

いない健康な村民福祉の向上を目ざして衛生係では千二百七十人を対象に第一次検便を行なった結果約三〇パーセントに当る三百六十八人が十二指腸虫を保虫していることがわかった。で、沖縄寄生虫予防協会の計いでコザ保健所から駆除剤新薬

オーミンを無償配布した、この薬剤は薬局から一日分購入した場合三六〇仙位かかるそうで、ほんとにありがたいことです。寄生虫駆生虫駆除にあたって検便実施があるときはもつと村民が積極的に関心をもってもらいたいものです。

村では村民福祉向上のため、予算を計検便のときは、各字区長を通じて容器（ビニール袋）が配られますので、必ず年一回は検便してもらって、健全なる健康体をつくるよう村民一人一人の協力を呼びかけている。

村の話題

1 行政、教育功労者の表彰

西原村（村長新川崔吉）では七月一日午前十時から村

役所会議室において行政、および教育に功労顕著な方々に対し村表彰条例によって表彰状と記念品を贈った

行政功労者

親泊輝武、宮平繕一、小橋川善伸

教育功労者

金城哲男、平敷りつ子、嶺井澄子、大城トミ子

表彰

人事

新社会教育主事に

比嘉武徳氏

このたび、中部連合区教育委員会の人事移動に伴い、前教育主事仲根英輝氏が中部連合区に転任になり、その後任に比嘉武徳氏を迎えた。比嘉氏は六年前まで西原小学校の若手の教師として技量手腕ともふさわしい社会教育者として、村民より大きく期待されている



2 球技大会——西原体協が

西原村体育協会では、今年度中部地区派遣選手を選抜するため、七月二十三日午前九時から西原中学校グラウンドにおいて各字対抗の球技大会を催したその成績はつぎのとおり。

1、排球の部（部長城間正雄）男子一位伊保の浜、

二位幸地、女子一位伊保の浜、二位翁長

2、籠球の部（部長安里貞雄）一位小橋川、二位伊

保の浜

3、卓球の部（部長城間太郎）一位小那覇、二位与

那城それぞれ優勝した。

体育

労組

4 教公二法阻止共闘会議

西原支部結成

八月四日午後五時から西原小学校講堂において教公二法阻止共闘会議西原支部結成のため中部製糖職労、西原村職労、西原通信職労、教職員西原分会（三校）四団体二十五名の代表が集り西原支部を結成、さらに今後部落懇談会を開催し、青年会、婦人会などで組織を強化する計画

支部役員

議長 仲原英喜（西小校）副議長 玉那覇三郎 幹事 新里昭則（中糖労）新垣善雄（中糖労）瀬底真守（西原通信労）佐久川正信（西職労）中村弘（西中校）

村育英資金に寄附

村役所、区教育委員会職員が

西原村（育英会長新川崔吉）では、六十二年十二月発足した村育英会は五ヶ年計画で村費と区教育委員会から年額六〇〇弗の補助金交付年度が終了、これまでの育英資金利用者は、本土大五、琉球内大五、高校一、計八名に三千三五弗の貸付、このほど、村職員、教委職員は、育英会の資金難と聞き、苦しい生活費の中から村育英資金として三七名で金九六弗を寄附した。

6 さとうきび生産苗の割当

村経済課においては、一九六七年度村内十五ヶ所に甘蔗中間苗は一〇〇アールを設置して、その生産甘蔗の配布計画を七月の第二回村定例区長会において村内十五名の委託経営者及び各字区長に伝達した。中間苗圃は、村の更新計画によって、よりよい甘蔗生産と単収をあげ農家所得の増加を期することが目的であるが、今年から村内に新品種NC三〇七六号原苗は一〇アール中間苗ほ六〇アール植付計画されて、来期からは蔗作農家申込があれば村の指定する条件で売って貰って広く普及する計画である。

7 講和発効前損失補償金支給始まる

個人最高一万二千ドルも

土地の復元補償、滅失の補償、不法行為による人身障害の補償など支払いが去る七月二十一日から三十日まで西原村役所で支払われた。総支払額四〇万四千九六六弗一〇仙で、個人最高では一万二千ドルの受給者もいて、旧盆を間にあわせて関係者の顔をホクホクさせた土地使用料分は九月上旬から約二七万一千弗支払する予定。

8 納税成績前年度より上昇

村財政課の六七年度の諸税（村民、固定、事業、不動産）の六月末日現在の調定額六万九千一五一弗九九仙に対し九九、四二パーセントにあたる六万八千七五四弗九八仙の納税成績六七年度の整理期間（八月中）で村外納税者が完納すれば、一〇〇パーセントに近く、前年度より〇、七九パーセントを上昇している。

村の世帯・人口

1967年9月末日現在

総世帯数	1,847戸
男	4,907人
女	4,916人
計	9,823人

当月の人口移動

出生	16	死亡	4
転入	17	転出	13
結婚	11	離婚	1



補償

育英

納税

産業

